

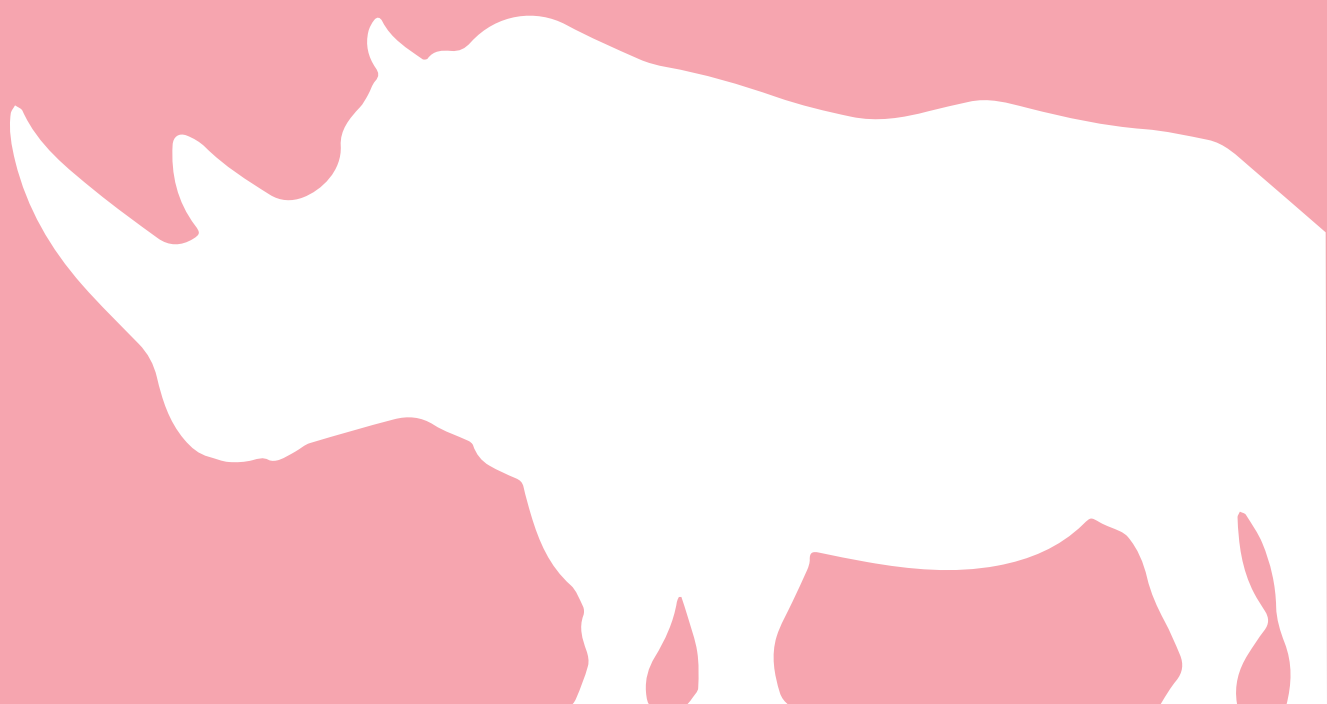
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

## 地域連携報告書

光華女子学園

## 環境報告書

令和5年度版



学校法人

光華女子学園

## Index

### 地域連携報告書・環境報告書（令和5年度版）

1. 「地球は沸騰している」	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から	03
3.1 地域の「健康・未来創造」に貢献できる大学を目指して	
3.2 環境を大切に作る大学だからこそ	

#### 地域連携報告書

4. 地域連携活動	04
4.1 地域との連携協定締結	05
4.2 本学の地域連携の取り組み	06
4.3 公開講座	13
4.4 健康・未来創造キャンパスを目指して	14

#### 環境報告書

5. エコキャンパスの推進	17
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量	18
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
5.2 KOKA エコアワード	21
6. 各校園の環境教育・環境活動	24
6.1 光華幼稚園	25
① 自然 ～野菜、果物の栽培収穫～	
② 廃材再利用 ～お店屋さんごっこ～	
③ 環境について ～絵本の読み語り～	
6.2 光華小学校	29
① 光華環境 DAY	
② 「海と日本プロジェクト in 丹後」	
③ 臨海学習	
④ フィールドワーク	
6.3 京都光華中学校・高等学校	33
① 環境美化委員の取組やピュッフェ講座にて	
：花の寄せ植えや色素増感太陽電池の作製	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	34
① オープンキャンパスで VR 環境学習	
② 芦生研究林サイエンスツアー 2023 の実施	
③ 上賀茂試験地サイエンスツアー 2023 の実施	
④ アップサイクル・ファッションショー	

## 1. 「地球は沸騰している」

2024年元日に突如発生した能登半島地震で、240名を超える尊い命が奪われ、今なお行方不明の方も数多くおられます。さらに1万人超の方々が避難所生活で塗炭の苦しみを強いられておられます。ここに深甚なる哀悼の誠を奉げるとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。北陸地方出身の学生は60数名を数えますが、帰省中の2名の教員を含めて全員が無事であったことは不幸中の幸いでありました。

ところで、一般的に地震のメカニズムは複雑でなかなか理解しがたいものですが、今回の地震も地球温暖化に起因するという説もあります。地球温暖化（この約130年で0.85℃上昇）で海面水位が上昇（1901年から2010年の間に19cm上昇）した結果、海底地下のマントル（地球内部の地殻と核の間の層）への荷重圧が大きくなり、日本列島に圧力が増して陸地が不安定化して振動した、というものです。これで今回の地震の原因を説明できているかどうかは別として、地球温暖化が私たちの生活に及ぼしている影響は大きいものがあります。周知のとおり、国連のグテレス事務総長は、2023年7月の世界平均気温が観測史上最高だったことを受けて、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と、最大級の表現で、今の地球の現状を表現しました。日本でも、23年夏の平均気温は1898年の統計開始以降、最も高くなりました。気象庁はこの状況を「温暖化がなければ起こりえなかった」と分析しています。異常な高温は世界中で記録され、アメリカや中国の一部では、日中の気温が50℃を超えたとか、北アフリカのリビアでは温暖化の影響で豪雨による洪水が発生し、8000人以上の人が命を落としたと言います。またカナダでは、山火事で膨大な土地（甲子園球場の約13000個分）が焼失しています。地球温暖化に伴う異常気象は、生態系を損ね、健康被害を惹起し、人々への影響が一層深刻さを増幅します。このような状況を回避するため、2015年のCOP21（第21回気候変動枠組条約締約国会議）において、産業革命前と比べて気温上昇を1.5℃以内に抑える「パリ協定」が締結されました。しかし残念なことに、気温はすでに1.1℃上昇し、このままのペースでは2030年に1.5℃に到達、2100年には3.2℃に達するといわれています。将に今、地球は沸騰しているのです。これは決して他人事ではありません。わが子、わが孫、わが子孫が美しい地球に包み込まれて命を繋いでいけるよう、私たちは身近なことから温暖化防止に取り組まねばなりません。

さて、来年はいよいよ2025年大阪・関西万博が開催されます。「万博」は、地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から叡智が集まる場です。今まさに、気候変動や地震といった地球規模での課題に対して、人類の叡智を結集する時です。本学は、「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーとして登録され、TEAM EXPOパビリオンへの参加も内定しています。ここでは、万博のテーマであります「いのち輝く未来社会のデザイン」に立脚して、本学の主要研究領域である「食と健康」に関する最新の研究成果を世界に向けて発信いたします。

今年度も各設置校においてさまざまな地域貢献、環境活動が実施されました。本書ではその一部をご紹介しますとともに、これからも地域から信頼される女子学園をめざして、教育・研究・社会貢献を進めてまいります。

光華女子学園 学園長・名誉理事長  
阿部 敏行



## 2. 光華女子学園の概要

### 【沿革】

- 昭和14年 9月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
- 15年 4月 1日 光華高等女学校開設
- 19年 3月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
- 20年 3月29日 高女同窓会「激清会」発足
- 22年 3月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足
- 22年 4月 1日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
- 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
- 23年 4月 1日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
- 25年 4月 1日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
- 26年 2月28日 学校法人光華女子学園設立認可
- 29年 4月17日 光華衣服専門学院開設
- 39年 4月 1日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
- 40年 4月 1日 光華幼稚園開設
- 43年 4月 1日 光華小学校開設
- 62年 4月 1日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
- 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方選淨（83才）
- 3年 4月 1日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
- 5年 4月 1日 短期大学、家政科を生活学科に改称
- 6年 4月 1日 大学、文学部に人間関係学科を設置
- 6年11月22日 光華衣服専門学院廃校
- 7年 4月 1日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
- 9年 4月 1日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
- 10年 4月 1日 光華女子大学大学院開設  
文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
- 12年 4月 1日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称  
光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称  
英米文学科を英語英米文学科に改称
- 13年 4月 1日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更  
大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
- 14年 4月 1日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部人間健康学科を設置
- 15年 4月 1日 大学、人間関係学部社会科学部を設置
- 16年 4月 1日 大学院人間関係学研究科（修士課程）を設置  
京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究科附属施設）開設
- 17年 4月 1日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
- 18年 4月 1日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置  
ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定  
短期大学部にこども保育学科を設置
- 20年 4月 1日 大学、人間関係学部人間科学部に改称  
大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称  
大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
- 22年 4月 1日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置  
人文学部に文学科、心理学科を設置  
キャリア形成学部キャリア形成学科を設置  
健康科学部に健康栄養学科を設置
- 23年 4月 1日 大学、健康科学部に看護学科を設置
- 25年 4月 1日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設  
地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
- 26年 4月 1日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、心理学科を開設  
大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
- 27年 4月 1日 大学院看護学研究科を設置  
短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども教育学科を設置
- 28年 4月 1日 女性キャリア開発研究センターを開設
- 30年 4月 1日 大学に助産学専攻科を設置
- 31年 4月 1日 大学・短期大学部にリベラルアーツセンターを開設
- 令和 2年10月30日 富小路まちやキャンパスを開所
- 令和 3年11月15日 光華もの忘れ・フレイルクリニックを開業
- 令和 4年 4月 1日 大学人間健康学群を設置

### 【学生・生徒・園児数（2023年5月1日 現在）】

大学院	34人
大学	1,691人
短期大学部	129人
高等学校	343人
中学校	107人
小学校	213人
幼稚園	170人
合計	2,687人

### 【教職員数（2023年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	104人	171人	275人
短期大学部	11人	13人	24人
高等学校	31人	32人	63人
中学校	8人	6人	14人
小学校	18人	11人	29人
幼稚園	12人	10人	22人
職員	85人	58人	143人
合計	269人	301人	570人

### 【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

◆校地面積（2023年5月1日 現在）	
北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
富小路まちやキャンパス	67.00㎡
合計	71,839.99㎡

◆校舎面積（2023年5月1日 現在）	
北校地	37,343.89㎡
南校地	23,067.18㎡
大原野グラウンド	435.58㎡
富小路まちやキャンパス	67.00㎡
合計	60,913.65㎡

### 【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



### 3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターは、地域との共生や活気あるエコキャンパスの実現をはかる拠点として、産官学連携によるまちづくりや地域の課題解決の他、本学の教育特性や知的財産を活かした公開講座及び、イベント等の開催をとおり、地域貢献、社会貢献を推進しています。

#### 3.1 地域の「健康・未来創造」に貢献できる大学を目指して

2023年度は、新たな地域交流の場として「光華子ども食堂（おいでよ！こうかわくわく食堂）」「光華ワクワク×健やかフェス」を本学で、「光華イキイキ朝市」を富小路まちやキャンパスで開催しました。開催にあたりましては、地域の皆様や連携する企業・団体から多大なご協力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

また、京都光華公開講座では、「健康・未来創造」或いは「認知症予防」をテーマとして、本学のクリニック（光華もの忘れ・フレイルクリニック）を含めた、教育・研究の特性を生かした11の講座を開催しました。その他、産官学連携プロジェクト科目や地域連携型科目をはじめとする、教育面での地域連携活動も数多く実践することができました。

来年度は、葛野大路五条の交差点に面した新棟「光耀館」にて、光華子ども食堂や、リニューアルした光華ワクワク×健やかフェス等を開催する予定です。

これらの活動を通して、まちづくりや地域のみなさまの健康・未来創造に貢献できるよう、今後も継続して取り組んでまいります。

ご指導ご鞭撻を賜りますよう、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携推進センター長  
関 道子



#### 3.2 環境を大切にする大学だからこそ

「環境」という言葉を聞かない日はありません。本学は、今年度も環境に関する取り組みや教育に積極的に取り組んできました。そのひとつが環境教育推進室が主催するKOKAエコアワードです。今回は、教職員、保護者・ご家族、本学園のお取引様、そしてオープンキャンパスや公開講座などの参加者からエコ作品を募集し、1,300件を超える作品の応募がありました。KOKAエコアワードを通して環境配慮の意識啓発に取り組むことができたかと思えます。今後もKOKAエコアワードを取り組んでいきますので、ぜひご参加ください。

2025年には大阪・関西万博が開催されます。本学も参加する大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げています。「いのち輝く未来社会のデザイン」には環境は欠かせないものです。万博を契機に、私たちが暮らす社会では環境配慮がより一層進んでいくでしょう。「未来創造」を掲げ、環境を大切に続けてきた本学だからこそ担える役割があるかもしれません。今後も環境活動や教育に地道に取り組んでいきます。

環境教育推進室長  
金治 宏



## 4. 地域連携活動





## 4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。今年度は、下記の協定を結びました。

協定締結日	締結先	協定名
2023年6月13日	京都市	健康創造に向けた相互連携に関する包括連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、地域に根ざした健康増進や生活習慣病予防等に係る取組を進め、市民の健康に対する意識向上を図るとともに、本学における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民の健康維持・増進に関すること</li> <li>(2) 健康づくりを通じた地域の活性化及びまちづくりの諸施策の推進</li> <li>(3) 健康に関する担い手育成・交流に関すること</li> <li>(4) その他、協議して必要と認めること</li> </ol>	
2023年7月11日	京都市農業協同組合 全国農業協同組合連合会京都府本部	地域の食育活動や地産地消の推進等に関する相互連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力のもと、地域の食育活動や地産地消の推進を図るとともに、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「相互連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の食育活動、地産地消の推進</li> <li>(2) 農業振興と地域貢献に向けた連携・協力</li> <li>(3) (1)(2)及び「食」に関わる研究成果の発信等による地域の活性化及びまちづくりの推進</li> <li>(4) 上記の活動において地域に貢献できる人材の育成</li> <li>(5) その他、協議して必要と認めること</li> </ol>	
2023年10月4日	公益財団法人京都市スポーツ協会	健康・未来創造に関する包括連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、健康及びスポーツの普及・振興、地域に根ざしたさまざまな課題解決、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民の健康維持・増進に関すること</li> <li>(2) 健康及びスポーツに関する地域の活性化と人材育成・交流に関すること</li> <li>(3) 高齢者のフレイル予防に関すること</li> <li>(4) 生涯学習に関すること</li> <li>(5) その他、協議して必要と認めること</li> </ol>	
2024年1月25日	京都ハンナリーズ（運営会社：スポーツコミュニケーションKYOTO株式会社）	健康・未来創造に関する包括連携協定書
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、健康及びスポーツの普及・振興、地域に根ざしたさまざまな課題解決、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康及びスポーツに関する地域の活性化と人材育成・交流に関すること</li> <li>(2) 市民の健康維持・増進に関すること</li> <li>(3) 明るい地域社会づくり・街づくりに貢献すること</li> <li>(4) 地域の子どもたちの健全な発達・発育に関すること</li> <li>(5) その他、協議して必要と認めること</li> </ol>	

【これまでの締結一覧】

協定締結日	締結先	協定名
2010年11月7日	葛野学区自主防災会	葛野学区自主防災会との協定 - 大規模災害発生時における地域協力に関する協定 -
2011年11月4日	右京区役所、5つの大学	右京区大学地域連携に関する協定（5つの大学：京都外国語大学、嵯峨美術大学、花園大学、京都先端科学大学、立命館大学（2015年4月8日京都学園大学を追加））
2013年7月17日	高知県嶺北地域観光・交流推進協議会	嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する協定
2014年3月8日	右京区役所、右京消防署	右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」
2014年5月30日	京都府立東稜高等学校	京都府立東稜高等学校との協定
2015年12月8日	京都市教育委員会	京都市教育委員会との相互連携に関する協定
2017年7月19日	京都府右京警察署	地域の安全・安心等に関する協定
2018年4月1日	株式会社ノーリツ	株式会社ノーリツとの「おふる部」に関する覚書
2021年5月14日	京介食推進協議会	京介食推進協議会と産学連携プロジェクトに取り組むための包括協定
2021年10月7日	株式会社エイデル研究所	リカレント教育「次世代ケアワーカー育成プログラム」に関する協定書
2022年3月1日	京都市	京都市と京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定書
2022年6月24日	第一生命保険株式会社	地域社会の活性化及び発展に貢献することを目的とした「包括連携協定」

## 4.2 本学の地域連携の取り組み

### ■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。実際の課題をプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。



出張オレンジサロン（ぶらっと梅津）



オレンジサロンチラシ





## 2023年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

a	テーマ：・子ども食堂の役割を理解する ・地域との関わりを通じた学びと成長	連携先：NPO 法人 happiness
	担当教員：金治 宏（キャリア形成学科）	
	子ども食堂に焦点を当て、注目を集める社会的背景や居場所づくりについて学び、その運営やネットワークづくりについて考察する。さらに、地域との交流を通じてプロジェクトの実践力を身につける。	
b	テーマ：地域との連携を通じた学びと成長	連携先：東洋竹工株式会社・向日市観光協会
	担当教員：高野 拓樹（キャリア形成学科）	
	荒廃が進む竹林問題に焦点を当て、竹とその歴史や有効利用について学び、持続可能な竹林整備についてボランティア活動などを通じて考察する。	
c	テーマ： 「私たち目線」で提案する仁和寺のプロモーション展開	連携先：真言宗御室派仁和寺
	担当教員：朝比奈 英夫（キャリア形成学科）、大島 祥子（キャリア形成学科）	
	コンソーシアム京都が主催する世界遺産 PBL 科目の一環として、仁和寺（右京区）と連携した授業。仁和寺の歴史や文化、地域との関わりを学びながら、主に若い世代を対象に仁和寺の魅力を発信する手段と内容を構築する。	
d	テーマ：地域との連携を通じた学びと成長	連携先：社会福祉法人花の会（高槻市）
	担当教員：浜内 彩乃（医療福祉学科社会福祉専攻）	
	ジャズストリートイベントで連携先との出店企画から、地域イベントの企画運営について学ぶ。障害者の方や地域の方と社会福祉法人とのつながりの場を体験しつつ、イベントの企画運営力を身に着ける。	
e	テーマ：地域との関わりを通じた学びと成長	連携先：京都市右京区地域介護予防推進センター
	担当教員：関 道子（医療福祉学科言語聴覚専攻）	
	地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能の低下を予防し、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を行う活動に取り組む。2018年から学内で運営している介護予防サロンを企画・運営し、地域との実践的な連携、工夫や経験を通して、今年度授業期間中は、同サロンを3回開催した。	

## 【産官学連携プロジェクト活動の様子】



産官学プロジェクトの様子

**■「学まち連携大学」促進事業**

2020年、京都市及び(公財)大学コンソーシアム京都の「学まち連携大学」促進事業に採択された本学の取り組み「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」では、4年目の事業を下記のとおり実施しました。本学では、これまでの地域と連携した教育を展開し、学生の京都市定着と卒業生や地域住民の再就職及びキャリアアップを目指すべく、学生に向けた授業や社会人を対象に下記の取り組みを実施しています。

**2023年度の取り組み**

項目	内容
まちやサテライト キャンパス活用	キャンパスを利用した科目 地域連携型科目：「プロジェクト実践」、「産官学連携プロジェクト」等 各種企画： ・光華イキイキ朝市 (JA京都市による野菜の販売や本学オレンジサポーターズによるオーラルフレイルチェック、京介食推進協議会によるやわらか和菓子販売など) ・学園幼小中高と地域の方の作品展 ・茶道部と同心児童館によるお茶会 など その他ゼミ、研究会等での使用 ※まちやキャンパス使用例参照
地域連携型教育の拡大	今年度は、授業連携先の影響に伴う授業内容の変更や受講生の減少にともなう不開講授業もあったが、14科目を開講した。昨年度のカリキュラム変更において必修科目に地域連携科目を採用した結果、1年生・2年生の全員が1科目以上の地域連携科目(「ライフデザイン・コンピテンシーⅡ c・d・e」、「ライフデザイン特論 b・h」、「京の伝統文化を創る」、「くらしに生きるものづくり」、「商品企画論」、「ユーザー体験価値デザインⅠ・Ⅱ」)を受講した。 ※下記ライフデザイン学科地域連携型科目例を参照
リカレント教育	リカレント教育の継続実施、社会人職場見学実施

**今年度開講したライフデザイン学科での地域連携型科目(一例)**

ライフデザイン・コンピテンシーⅡ e
担当教員：久世 奈欧
子どもに祇園祭の伝統や文化を伝え、子どもとともに祭りを楽しむ取り組みについてボランティア活動やコンテンツ作りを検討する授業。
ライフデザイン・コンピテンシーⅡ c
担当教員：青木 正明
京都市中京区内で地域コミュニティ活動を主体的に行っている「富有自治連合会」の諸活動を通じて、「地域＝社会」という認識のもと、地域と社会の抱える問題についてその要因を収集し、問題点を結論づけ共有する。具体的には、地域の区民運動会、体育振興会のハイキングイベント、そして自主防災会・消防分断主催の防災訓練活動に参加・協力し、実際に地域活動を担う方々へのインタビューを行い様々な実践的学びによる情報共有を深め地域に潜む問題点を理解することができた。
商品企画論
担当教員：羽深 太郎
社会環境の変化や社会のニーズを捉え、イノベティブな発想をもって顧客の支持を得られる商品を具現化するための手法を学ぶ。今年度は京都で130年の歴史がある和菓子の製造・販売をされる青木光悦堂の新商品開発をテーマに、女子大生の視点で新しい商品コンセプトを検討し企業に提案した。



ライフデザイン・コンピテンシーⅢ
担当教員：青木 正明、鹿島 我 (aクラス) / 羽深 太郎、小山 理子 (bクラス)
令和4年度から新たに開講した2年生全員が履修する必修課目。本年度は京都市で色絵具や胡粉を製造・販売する上羽絵惣株式会社と連携し、商品の販売方法や認知度向上について、グループワークを中心としたPBL型授業に取り組んだ。
ライフデザイン・コンピテンシーⅡ d
担当教員：羽深 太郎
京都市の寺町京極商店街振興組合と連携した産学連携授業。学生が実際に商店街を訪れ、学生の視点で商店街の魅力を洗い出し、活性化に繋がる魅力をポスターやSNSを通じて伝えるアイデアをまとめるとともに、商店街が抱える課題や活性化について学生の視点で評価・分析を行い、商店街に報告した。
パッケージデザイン演習
担当教員：羽深 太郎
京都市で魚の加工品を製造販売する株式会社アイスレーションの商品をテーマに、ふるさと納税用商品のパッケージデザイン制作を題材にデザインの検討と提案を行った。
ライフデザイン特論 e
担当教員：桑島 千栄
JA 京都 中央と連携し、JA 京都中央管轄の生産者の作業場を訪問。ネギおよびオクラの収穫・体験・作業見学を通じ、SDG'sの1テーマである「食品ロス」の問題について考察し、学生の課題発見・問題解決の思考を促した。
くらしに生きるものづくり
担当教員：青木 正明、久世 奈欧
京都市内にある山田松香木店、吉靴房、西村友禅彫刻店、haru nomura と連携し、ものづくりにおける作り手の思いや人の智慧、人と人、人とモノとのつながりについて自ら考え、人の手によるものづくりや各産業への興味と理解を深めた。



くらしに生きるものづくり



商品企画論



ライフデザイン特論e



パッケージデザイン演習



ライフデザイン・コンピテンシーⅡ d

■ 富小路まちやキャンパス（中京区富小路御池下ル松下町）使用例

京都の伝統的な住まいである町家で、学生・生徒・児童・園児 に対する教育活動を実施していくために、2020年10月に開設された「富小路まちやキャンパス」では、授業や、学生の企画発表、各種講座やワークショップ、卒業生を交えた意見交換会の会場として使われています。

【正課科目】

内 容	担当者
プロジェクト実践（まちやオペラハウス）	大島 祥子（キャリア形成学科）
プロジェクト実践（商品企画）	吉田 咲子（キャリア形成学科）
応用ゼミ （高齢者向けスマホ使い方教室、手芸部）	金治 宏（キャリア形成学科）
ライフデザイン・コンピテンシーⅡ e	久世 奈欧（ライフデザイン学科）

【地域との連携】

内 容	連携先／担当者
留学生への日本語指導の連携	大学コンソーシアム京都／上田 修三（キャリア形成学科）
ペーパークラフト鉾づくりワークショップ	こどもと行こう！祇園祭実行委員会 ／久世 奈欧（ライフデザイン学科）
光華イキイキ朝市	JA 京都市、京介食推進協議会／地域連携推進センター
町家でお茶会	同心児童館／茶道部、地域連携推進センター

【その他（研究利用・研究会・同窓会）】

内 容	担当者
JSISH 医療 ID 実践事例研究会	徳永 基与子（看護学科）
ヨガ・マインドフルネスの実践	谷本 拓郎（心理学科）
プリザーブドフラワー展示会	同窓会



まちやオペラハウス



同心児童館とのお茶会



まちや合同作品展



光華イキイキ朝市

### ■ 各学科の取り組み（一例）

本学では正課科目「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな企業や団体と連携した取り組みや授業を実施しています。

#### 『そうだ、野菜とろう！弁当』販売

担当教員：齊藤 曜子、小島菜実絵、下山 亜美（健康栄養学科）

販売期間：5月31日～6月27日

近畿地区の「イオン」及び「イオンスタイル」86店舗

京都市による『そうだ、野菜とろう！』キャンペーンに合わせ、イオンリテール株式会社と管理栄養士養成校3校（本学・同志社女子大学・京都女子大学）による産官学連携の弁当販売企画（3年連続参加）。健康栄養学科4年生が『豆腐ハンバーグと11種野菜弁当』、『彩り野菜と照焼チキン弁当』（各 [598円+税]）のレシピを考案・商品化しました。



右京警察署との連携 担当教員：竹西 正典（心理学科）	
正課「社会心理学入門」、「司法・犯罪心理学」、「心理学専門演習Ⅰ」	
<p>本学は、京都府右京警察署と地域の安全・安心等に関する協定を締結していることから、それぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実を目的としています。今年度は、心理学科1～3年生が右京警察署より講義を受けました。鑑識課での指紋や足跡、DNAを採取する体験や女性警察官が24時間対応する「平安なでしこ交番」での実習では、社会心理学に関心のあるゼミ生には、警察業務の一現場や地域を守る女性警察官の活躍を知る機会となり、卒業後の生き方を考える上で、印象深い授業にもなりました。</p>	
6月2日 「社会心理学入門」	「幼児の交通安全」と「少年非行」について
6月13日 「司法・犯罪心理学」	犯罪情勢と護身術について 「女子大学生が気を付けること」
6月22日 「心理学専門演習Ⅰ」ゼミ	なでしこ交番見学（鑑識体験、女性警察官による講話等）



失語症サロン「おこしやす」 担当教員：松田 芳恵（医療福祉学科言語聴覚専攻） 瀧澤 透（客員教授）	
7月1日、12月17日 太子堂	
<p>「相手の言っていることが良く理解できない」「言いたい言葉が出てこない」等同じ悩みを抱える方が集まり、学生（学Booo「コミュニケーション支援プロジェクト」メンバー）が考えたゲームで参加者と交流するサロンを2019年から実施。今回は、「若い失語症者の集い」と合同開催され、府外からの参加者もあり、普段の活動をもとに発展した交流の場となりました。</p>	



光華こどもひろば 担当教員：和田 幸子（こども教育学科）	
前期10回、後期10回 慈光館保育実習室	
<p>2013年から学内で継続実施している光華こどもひろばでは、地域の未就園児親子が自由に安心して遊べる場を提供。学生による絵本の読み聞かせや紙芝居など定期的に開催。大学祭では、玉入れ、ボーリング、まとあての遊びコーナーと、メダル作り、こま作りなどを実施し、多くの親子連れに参加していただきました。（実施日：4/19,5/17,5/31,6/4,6/7,6/21,7/5,7/19,7/22,8/5,9/27,10/4,10/18,11/1,11/11,11/15,11/29,12/6,12/20,3/20）</p>	



第14回右京サンサにこにこ広場 担当教員：西野 夕子（こども教育学科）	
11月14日（火）サンサ右京4階 右京地域体育館	
<p>子どもたちの健やかな成長と安心して子育てできる環境づくりの一環である「右京子育てサロン サンサにこにこ広場」（実行委員会事務局：健康長寿推進課）に、こども教育学科の4年生2名が運営に参加。遊びの間にご参加の保護者の方と話を交わし、子育て支援の一端を担うと共に、同じ会場にいらした地域の方々とも言葉を交わすことで、コミュニケーションを図ることができました。</p>	





## 4.3 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として公開講座を提供しています。健康・未来創造キャンパスを目指す本学は、今年度「すべての人が健やかに暮らせるウェルビーイングな未来に向けて」をテーマに、健康・未来創造と認知症・フレイル予防の視点から下記の講座を実施しました。



## 公開講座（2023年度）

実施日・会場	タイトル・講師
4月29日 慈光館太子堂	認知症とフレイルを防ぐ中国伝統医学の方法を体験してみませんか？ 呉 小玉（看護学科教授） 何 紫秋氏（大学院卒業生／京都認知症センター）
5月27日 慈光館太子堂	きこえの多様性～よりよく通じ合えるコミュニケーションのために役立つ知識～ 高井 小織（言語聴覚専攻准教授） ヨガ・マインドフルネス体験型ワークショップ 谷本 拓郎（心理学科講師）
6月10日 慈光館太子堂	これからの観光について 上田 修三（キャリア形成学科教授） いま、社会が注目する健康経営とは？－生涯現役であるための秘訣－ 酒井 浩二（人間健康学群・キャリア形成学科教授）
7月15日 徳風館小講堂	ともに生き ともに輝く 社会を目指して～落語で学ぼう！精神障がいのこと～ 村上 貴栄（社会福祉専攻講師） またき亭いっばい氏（落語家）
8月5日 1号館 202教室	光華の子育て支援 ―「光華こどもひろば」と「親子教室ひかりっこ&こもれび」― 和田 幸子（こども教育学科教授） 徳田 仁子（心理学科教授） 木本 けい子氏（卒業生）
9月16日 慈光館太子堂	障害を持ってウェルビーイングに暮らすことは可能か？ 上田 敬太（言語聴覚専攻教授／光華もの忘れ・フレイルクリニック院長）
10月21日 慈光館太子堂	「出会い、語らう、ほっこりカフェ」人は集い語らうことで、いつまでもその人らしく元気でいられる！ 石井 祐理子（社会福祉専攻教授） 藤井 直弥氏（京都市右京区社会福祉協議会） 本田 明子氏（浜ノ本町絆の会・卒業生） 生き生き元気な血管の育て方 森本 恵子（副学長／健康栄養学科教授）
2月10日 慈光館太子堂	住み続ける「住まい」と「まち」からみる持続可能な居住文化 郭 雅雯（ライフデザイン学科講師）

## 京都アスニー特別講演会

2月9日 京都アスニー	地球沸騰化時代の到来！～ごみや生き物など身近な環境問題から考える～ 高野 拓樹（キャリア形成学科教授）
----------------	--

## 4.4 健康・未来創造キャンパスを目指して

医療、福祉、栄養、スポーツ、教育、心理、社会、ライフデザインなど幅広い分野の研究・教育を通して人々の「健康」と「未来」を創造する女性を育成し社会へ貢献し、すべての人が健やかに暮らせる「Well-Being」な未来の実現を目指して、学生だけでなく地域に寄り添い、社会の要請に応えたく、さまざまな取り組みを実施しています。

### ■ 光華ワクワク×健やかフェス

「来場された時よりも健やかでワクワクした気持ちになれる1日を作る」という趣旨のもと【光華ワクワク×健やかフェス】を開催しました。このイベントは、大学が取り組んでいる健康・未来創造に向けた教育・研究活動や社会活動を発信しながら、地域の皆様とともに気軽に大学を楽しんでいただく初めての機会として企画されました。当日は小さなお子様からご高齢の方まで510名もの方にご来場いただき、「ワクワクエリア」「健やかエリア」「フードエリア」の催し物や体験を楽しんでいただきました。



- ◆日時：2023年6月4日（日）11：00～15：00
- ◆会場：京都光華女子大学（京都府京都市右京区西京極葛野町38）

### [ワクワクエリア]

#### 「心のネイリスト（社会福祉専攻/学Booo）」

水性ネイル（水やぬるま湯で落とせる）で小さいお子さま、妊婦、高齢者の方にも安心して楽しんでいただけました。

#### 「KOKA防災ジム（女性キャリア開発研究センター）」

クイズやゲーム、新聞紙スリッパ作成等をとおして、防災に関する知識を学び、クリアした方には「マスター認定証」が配布されました。

他ブース：光華こどもまつり（こども教育学科）、近距離モビリティ 電動車椅子WHILLの試乗体験（人間健康学群）、カラフルな布からモンスター誕生！（キャリア形成学科）、オープンライブラリー（図書館）、など



### [健やかエリア]

#### 「“健やか&簡単” 料理教室（健康栄養学科/光華もの忘れ・フレイルクリニック）」

食生活が単調、食事回数が減ったなどのシニア層に向けて時間をかけずに誰でも簡単にできる料理を大学生と一緒に作りました。

#### 「ヨガ&マインドフルネス（心理学科）」

初めての方も安心して取り組める「オールレベル」のレッスンで明るく心地良い時間を過ごしました。







他ブース：健康和菓子（血糖値が上がりにくい羊羹）の試食（基幹研究チーム）、KOKA☆オレンジサロン健やかフェス ver.（学Booo KOKA☆オレンジサポーターズ）、スマホの使い方相談所（キャリア形成学科）、もの忘れ相談（光華もの忘れ・フレイルクリニック）、作業療法体験ー羊毛フェルト動物づくり、ロボット猫アイちゃんとのふれあい（作業療法専攻）

### [フードエリア]

「京の輪マルシェ（京都ダイハツ販売）」 「京ベジマルシェ（JA京都市）」

他ブース：キネマ・キッチン（NPO法人みのりのもり劇場）



#### ■ 「おいでよ！こうかわくわく食堂」

◆日時：第1回目 2023年8月17日（木）、18日（金）11：00～14：00

第2回目 2024年2月12日（月祝）11:00～14:00

◆会場：京都光華女子大学 瑞風館 ◆対象：小学生とその保護者等

地域連携推進センターが主管となり、本学主催のこども食堂プロジェクトを立ち上げました。今年度は“誰もがワクワクできる場所に”をテーマに、学年や学部を越えた学生と教職員が専門性のある知識を活かした大学生にしか作れない空間を目指し2回開催しました。栄養学や社会福祉などを学ぶ学生たちが夏を感じるような催し物や食育を交えた企画を実施し、子どもたちだけでなく大人も一緒に楽しんでいただきました。参加者からは、「普段は野菜を食べない子どもが、今日は全部食べていた」「また企画があるならぜひ参加したい」「近くに住んでいるが、大学に入ることがなかったので構内を回ってみて楽しかった」などの感想を聞くことができました。学生たちにとっては日頃の学びを発揮できる取組で成長を実感できる場となりました。



#### ■ 光華イキキ朝市（「いつまでもおいしいものを食べたい！」やわらか和菓子の開発と普及活動）

「光華イキキ朝市」は、「食と健康」「伝統産業」をテーマにした新たな地域交流イベントです。富小路まちやキャンパスを会場に、JA 京都市と共催で3回（10月15日、11月23日、12月17日）開催しました。旬野菜の販売や「京介食（京都の介護食）推進協議会」によるブランド品の「やわらか和菓子」・介護スプーンの展示・販売に加え、学生（言語聴覚専攻）によるオーラルフレイル予防のための取り組みを行いました。

当日は、新鮮な野菜の販売をきっかけにまちやキャンパスに来られる方が多かったです。学生により嚥下力を測定された方は学生の話も熱心に聞かれている様子でした。イベントには近隣にお住まいの方だけでなく、やわらか和菓子に関心を持たれる介護従事者の方や言語聴覚士といった医療従事者の方にもお越しいただきました。

イベントには朝早くから多くの方にご来場いただき、地域の皆様と本学学生との交流も生まれ、活気のあるイベントとなりました。





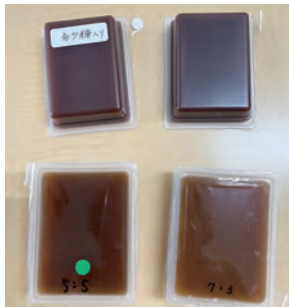
■ 「いつまでもおいしいものを食べたい！」嚥下調整食と機能性食品の開発と普及活動

健康栄養学科、医療福祉学科言語聴覚専攻、ライフデザイン学科はこれまで、見た目も大切にしたい飲み込みやすい和菓子の開発に取り組んできました。2021年に、京介食推進協議会と本研究チームは、嚥下調整食の開発と普及活動を産学連携によって推進することを目的とした協定を結び、新たな試作品の開発や、咀嚼に関する実験等を継続しています。

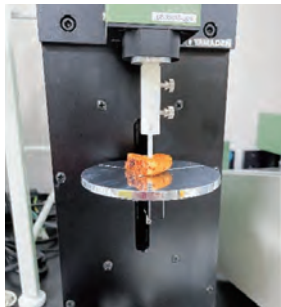
基幹研究「嚥下調整食および機能性食品の開発と普及活動」

研究担当	吉川 秀樹（健康栄養学科） 関 道子（医療福祉学科） 橋口 美智留・下山 亜美（健康栄養学科） 羽深 太郎（ライフデザイン学科）
------	---

高齢者の低栄養状態が多く指摘され、摂食嚥下機能が低下している方に向けた嚥下調整食や、機能性食品の生産数や普及が充分ではない情勢を受け、これらの食品の開発と普及活動を産学連携によって推進する研究活動。今年度は、タカシマフードファクトリー株式会社（京都市下京区）による希少糖使用の羊羹・コラーゲンペプチド使用の羊羹の試作、青木光悦堂（京都市山科区）取り扱い菓子の物性評価、京介食推進協議会の嚥下調整食和菓子の物性測定値公開（本学 HP にて）等を実施しました。



希少糖使用羊羹の試作



物性測定器



官能評価実験

参加イベント

12/1 500日イベント みやこめっせ 12/20 第3回TEAM EXPO MEETING

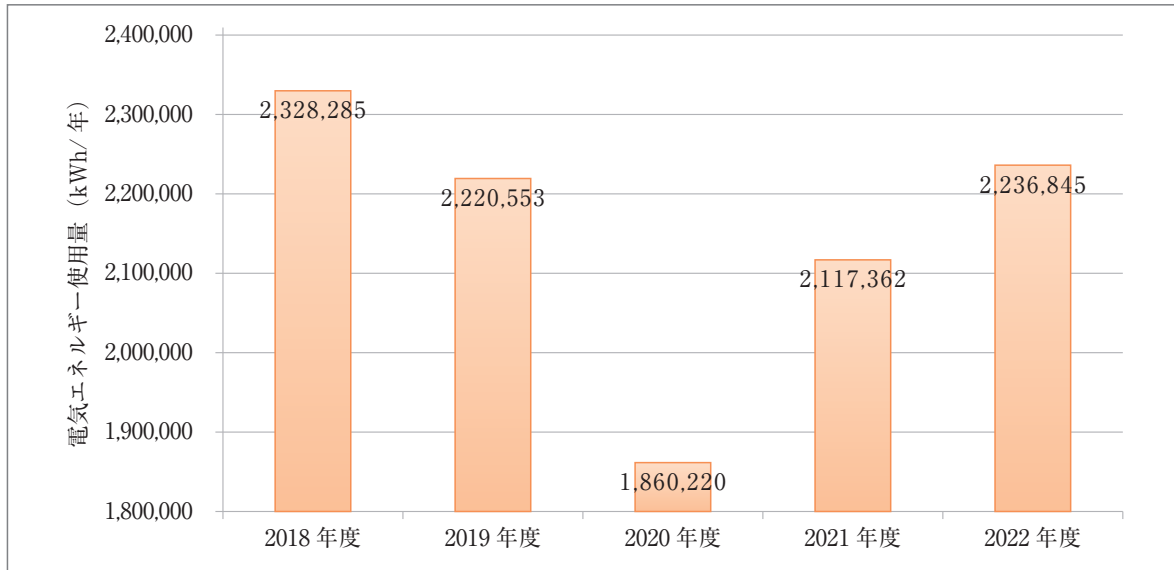


# 5. エコキャンパスの推進



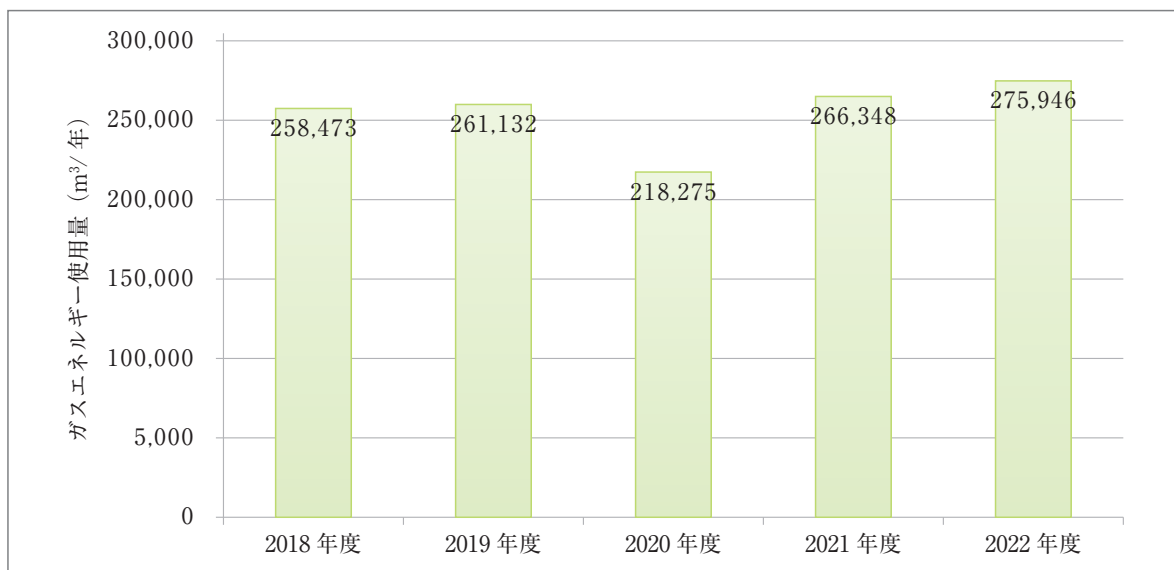
## 5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量

### ① 電気エネルギー消費量



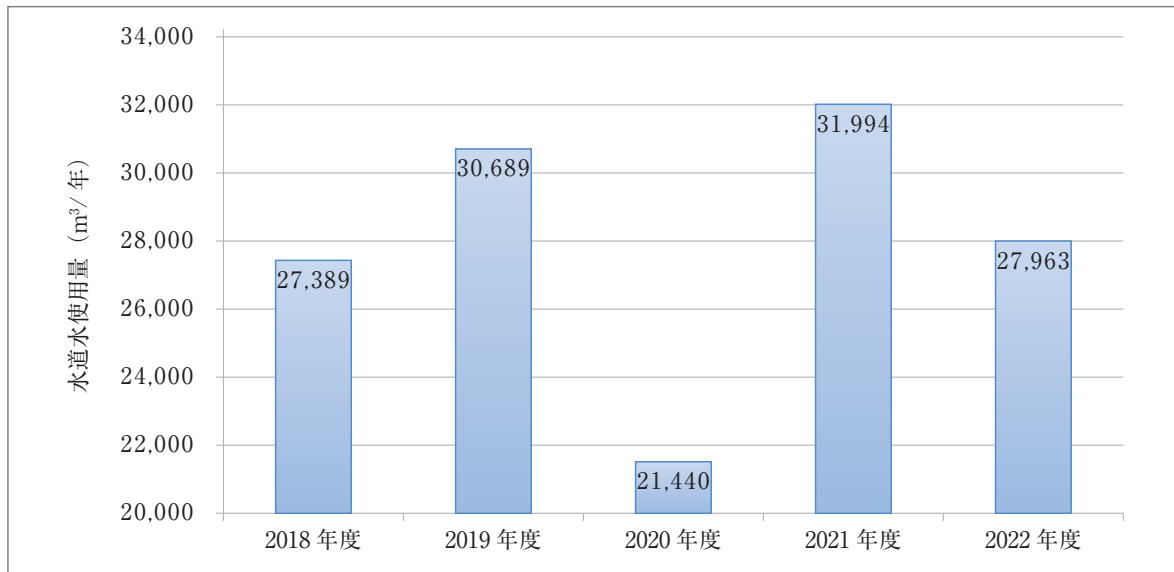
学園全体における電気エネルギー消費量は長期的に見て減少傾向にあります。この理由は、節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。また、電気（以下の、ガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2020年度の急激な減少と2021年度以降の増加傾向については、新型コロナウイルス感染ウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、対面授業が再開されたことが起因しています。

### ② ガスエネルギー消費量



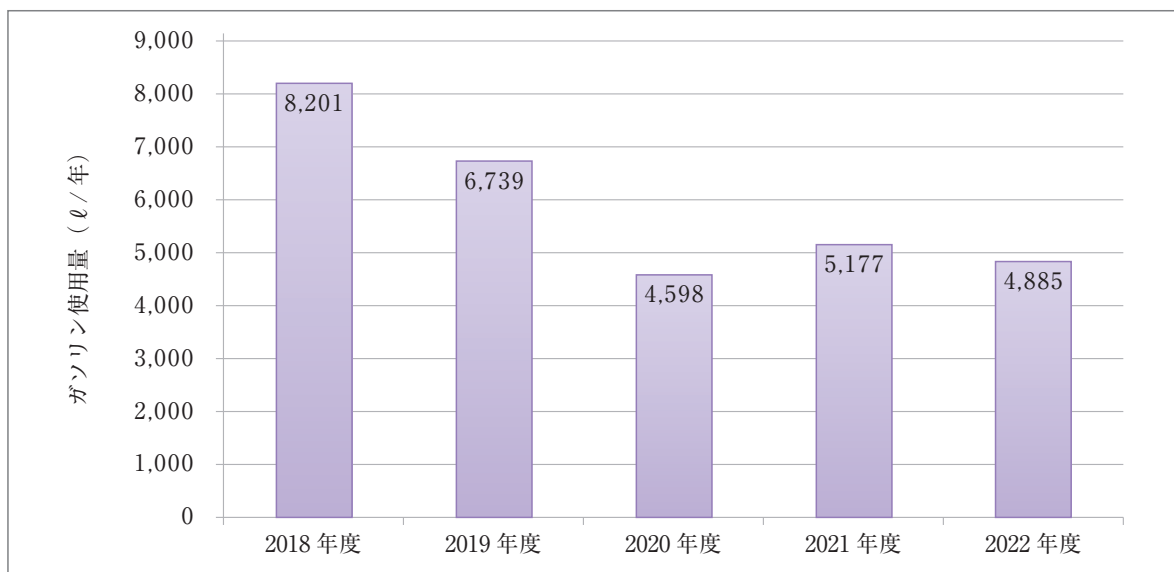
ガスエネルギー消費量についても、電気エネルギー消費量と同じ傾向にあります。2020年度の急激な減少と2021年度以降の増加については、新型コロナウイルス感染ウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、対面授業が再開されたことが起因しています。

### ③ 水道水使用量



学園全体における水道水使用量は、2022年度は2021年度に比べ減少しています。2020年度の水道水使用量の減少は電気・ガスエネルギーと同様に、2020年度の完全オンライン授業が反映された結果となっています。2017年度以前の使用量と比較すると同図の直近5年間の使用量は減少しています。

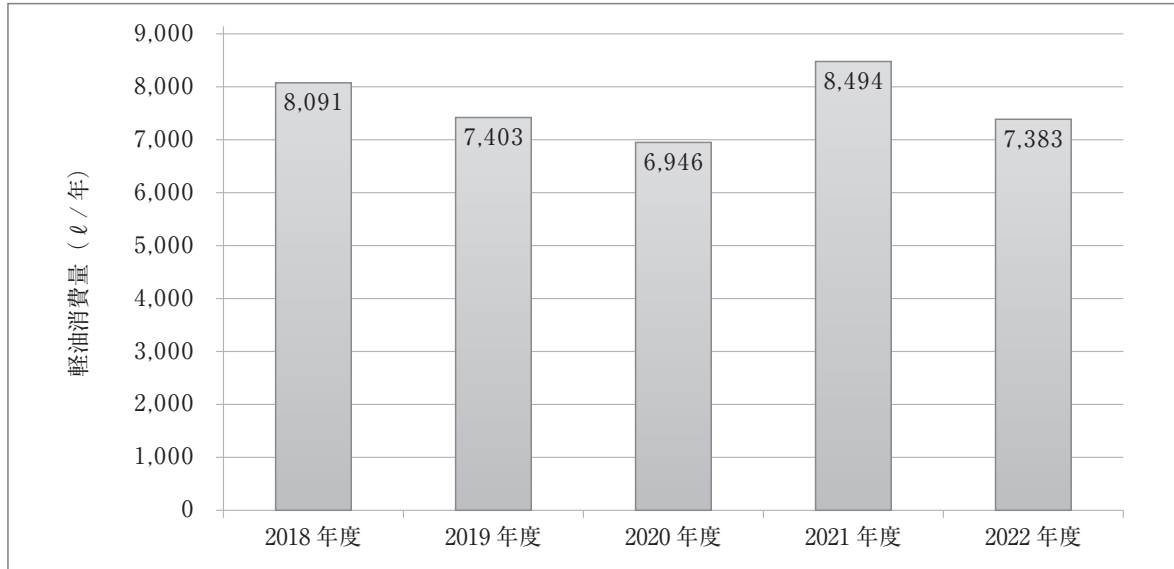
### ④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中高校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。こまめなアイドリングストップなどのエコ運転を以前より心がけてきたため、消費量を減少することができました。さらに、大学公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと思われます。なお、2020年度が最小値となった背景には、新型コロナウイルス感染防止の観点から、公用車を用いた対面での学生募集活動が制限されたことによるものです。



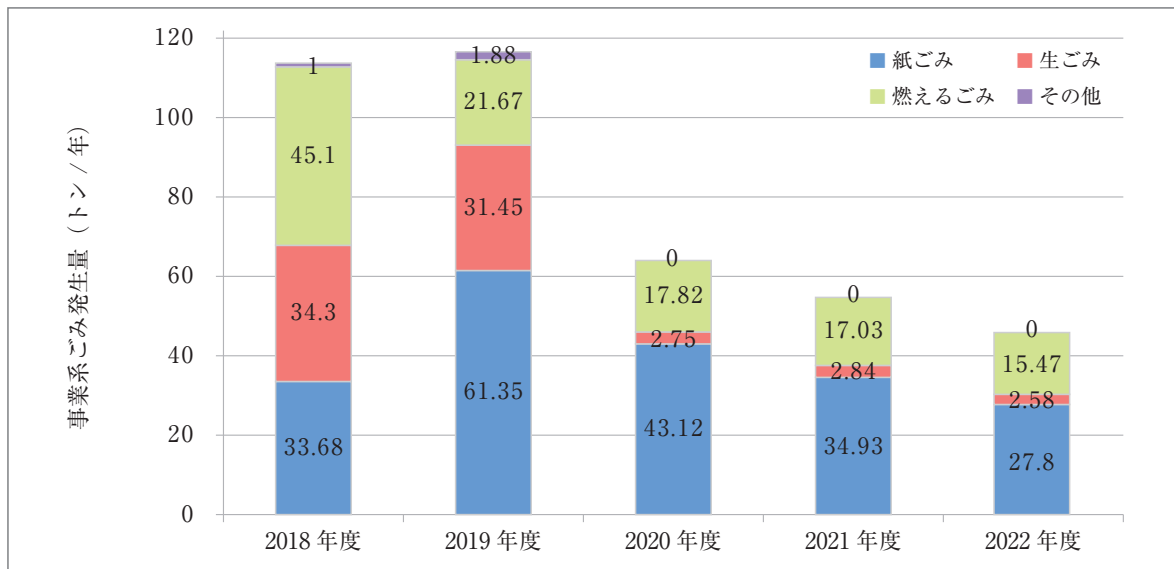
## ⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2021年度は幼稚園の送迎バスが新型コロナウイルス防止の観点から座席を間引きし、その分の園児の送迎回数を増やしたことにより軽油消費量は増加していますが、2022年度は2019年以前の水準になっています。

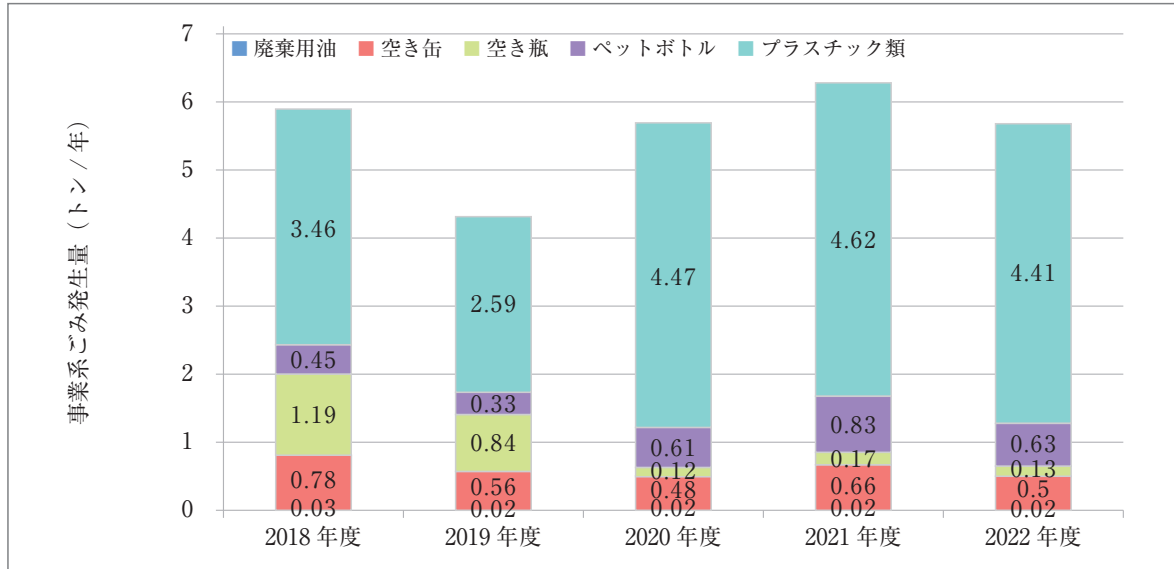
## ⑥ 廃棄物排出量

### ● 事業系廃棄物



2022年度は過年度に比べて、事業系廃棄物発生量は全体的に減少傾向にあります。項目別に見ると、特に全体の中でも割合の大きい紙ごみが減少しています。これについては燃えるごみ、生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により紙ごみとして資源化することができたことによるものです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取組を今後も推進していきます。

●産業廃棄物



2022年度の産業廃棄物発生量は昨年度に比べて減少傾向にあります。ペットボトルやプラスチック類は、近年、問題となっている海洋プラスチック汚染にも関係するもので、社会的に関心が高まっています。KOKAエコアワードでもペットボトルやプラスチック類に関する作品が数多く応募されています。啓発を継続し、ペットボトルなどのプラスチックごみを減少させることが大切です。

## 5.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で14回目を迎えました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。創立80周年にあたる今年度のエコアワードは、本学園に関係するすべての方、本学園のお取引先様まで募集範囲を拡大し、「標語・短歌（和歌）部門」へのエントリーを可能としました。「標語・短歌（和歌）部門」に関しては、応募フォーム（googleフォーム）を作成し、パソコンやスマートフォンから気軽にご応募いただけるようになりました。

皆様から合計1,356件の作品をご応募いただき、優れた作品に対して表彰をおこないました。



【趣旨】

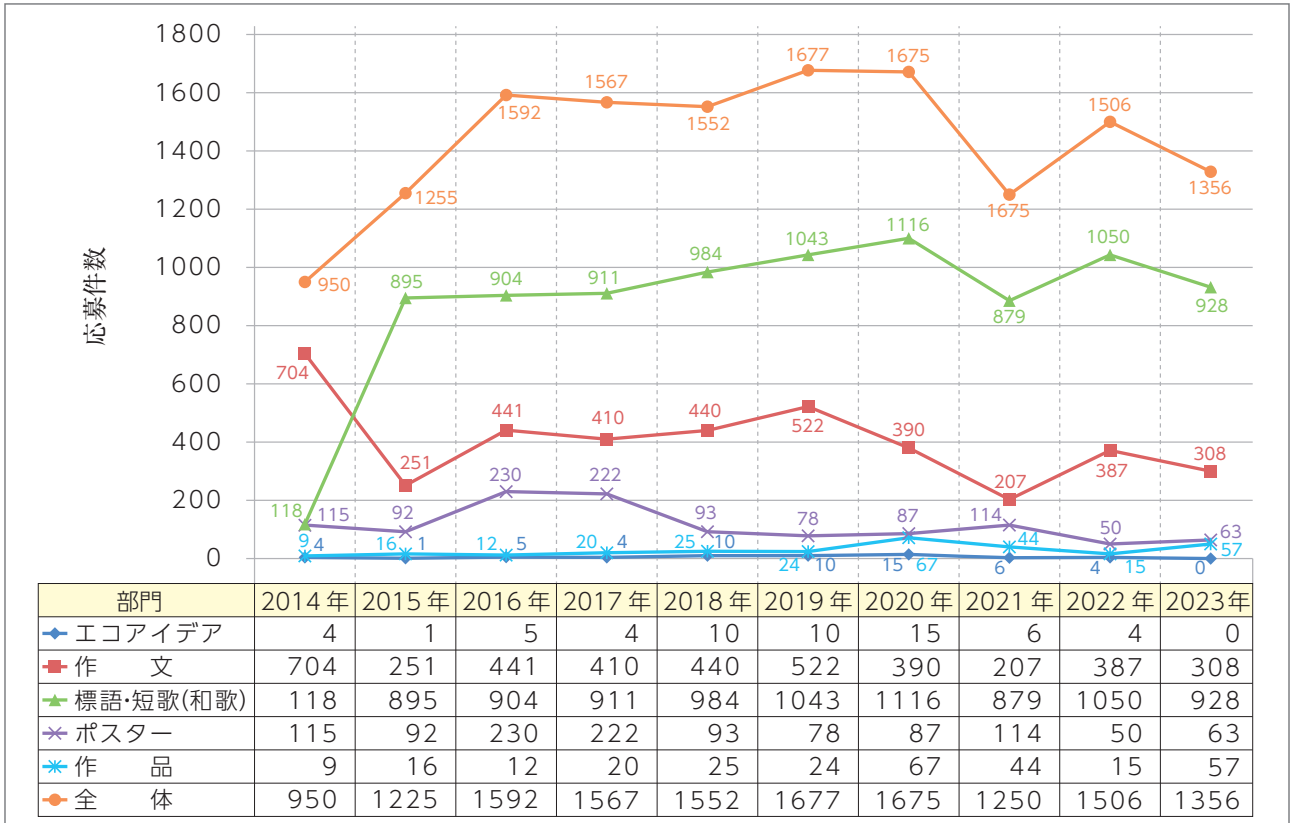
「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついでに、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現間光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）



## ●KOKAエコワード応募作品数の推移



## ●2023年度受賞作品（金賞・銀賞・銅賞・第一生命特別賞のみ掲載）

※詳細は<https://gakuen.koka.ac.jp/archives/5777>をご覧ください。

①エコアイデア部門 \*\*\*\*\* [今年度応募なし]

②作文部門 \*\*\*\*\*

 <b>金賞</b> 受賞者	「海の環境の 調べ学習を終えて」 小学校 5年2組 北里 悠一郎	 <b>銀賞</b> 受賞者	「フードバンクと 地球の未来」 高校 1年3組 伊藤 亜沙華	 <b>銅賞</b> 受賞者	「早寝早起きで エコ活動」 大学 看護1年 山口 素子
----------------------	---	----------------------	---	----------------------	--------------------------------------

③標語・短歌(和歌)部門 \*\*\*\*\*

<p>*** 八教職員の受賞作品 ***</p>	 <b>金賞</b> 受賞者 入学・広報センター 村井 伸吾	 <b>銀賞</b> 受賞者 キャリア形成学科 コモンズ 大西 菜穂子	 <b>銅賞</b> 受賞者 小学校 長澤 静	 <b>第一生命</b> 受賞者 小学校 中西 仁美
--------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------------



※△学生・生徒等の受賞作品▽※

風鈴もこの暑さでは効果なし  
鳴っているのは危機の警鐘

**金賞**  
受賞者  
高校 3年4組 加藤 南花

エコ社会 みらいにつなぐ 青いほし

**銀賞**  
受賞者  
小学校 2年2組 西村 理加

心配と言いつつ本音は「関係ない」  
地球の「いつか」は明日かもしれない

**銅賞**  
受賞者  
高校 1年4組 古田 帆花

食卓に ご飯が並ぶ 幸せは  
みんなが持つものじゃない

**第一生命**  
受賞者  
大学 看護学科1年 古川 蓮

※△卒業生・保護者等・関係先様の受賞作品▽※

わが家ではパパのダジャレが冷房に

**金賞**  
受賞者  
株式会社ワークアカデミー 宮藤 英樹さん

どれにする？ まだ使えと 子に言われ

**銀賞**  
受賞者  
第一生命保険株式会社 市瀬 健史さん

クローラーを 消し夕涼み 虫の音に  
月との出会い 心を癒やす

**銅賞**  
受賞者  
卒業生 笹間 ゆかりさん

マイお箸 ただ独りでも もち歩く

**第一生命**  
受賞者  
宮本設備 榎 沙久良さん

4 ポスター部門



受賞者  
「海にゴミをすてないで!!!」  
小学校 4年2組 浅野 栞

**金賞**



受賞者  
「地球を守る。」  
高校 3年1組 岡本 有咲

**銀賞**



受賞者  
「水族館?」  
高校 3年2組 中久保 音色

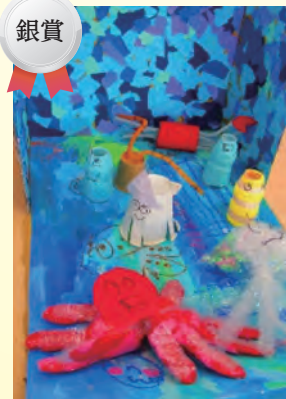
**銅賞**

5 作品部門



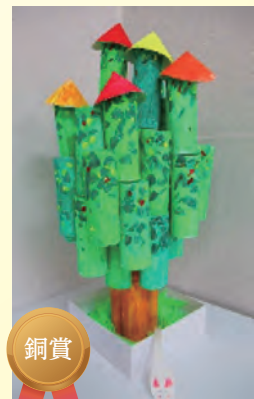
受賞者  
「私のエコランド」  
小学校 3年1組 福岡 奈緒

**金賞**



**銀賞**

受賞者  
「きれいなつみでたのしもう!  
みんなのうみだいせつにするよ!」  
幼稚園 年中ひまわり 藤尾 碧空



受賞者  
「木がいつぱいになりますように。」  
幼稚園 年中たんぼぼ 八木 静香

**銅賞**

# 6. 各校園の環境教育、 環境活動



*Koka Kindergarten*



*Koka Elementary School*

*Kyoto Koka Senior High School  
Kyoto Koka Junior High School*



*Kyoto Koka Women's University  
Kyoto Koka Women's College*



## 6.1 光華幼稚園

### ①自然 ～野菜、果物の栽培収穫～

幼稚園では各学年、野菜の栽培・収穫を行い、旬のものをいただきます！

また、園庭には実のなる木があるので、みかんやシークワサーなどの季節の果物をいただきます。春夏秋冬、それぞれ季節の変化とともに

自然の変化にも触れながら、その時期ならではの自然を、五感を通して日々過ごしています！



春

園庭には桜やチューリップ、アリヤダンゴ虫など、手で触れられる自然がいっぱい！小さな命の大切さに気づく春の季節



夏野菜の苗植え



大切な土作り

使った土は再利用！再度栄養を入れて耕します  
土づくりはお家づくりと一緒に！大きく成長するようにみんなで力を合わせてまぜまぜ～



大きくなあれ！  
早く食べたいな



マリーゴールドの種まき

手作りペットボトルで水やりもしています



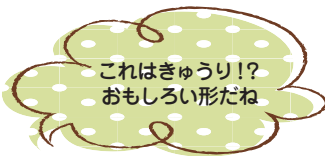
自然物を使ってあそぼう

美味しそうな色水ジュース屋さんやお花のケーキも美味しそう

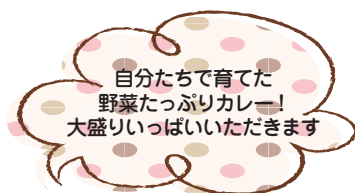


夏

太陽の日差しをたっぷり浴びて、夏野菜がぐんぐん生長！収穫から試食！お泊り保育では育てた野菜をカレーライスにして食べました



これはきゅうり!?  
おもしろい形だね



自分たちで育てた  
野菜たっぷりカレー！  
大盛りいっぱいいただきます

夏野菜の収穫をしたよ





秋は園外にも出かけて、秋の自然に触れたり、自然物を拾って製作したりと、宝物がいっぱい！



### 牛乳パック木の実入れ

遠足に持っていき、沢山のどんぐりや落ち葉を集めたよ



### 芋掘り遠足にいったよ

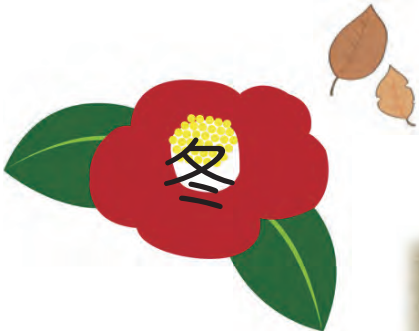
家族のようにお芋が繋がっていて、また出てきた！と大喜び

こんな木の実を見つけたよ！  
名前は何だろう



バッタのお墓  
天国でもたくさん飛んでね！  
南無阿彌陀仏

葉っぱの色がきれい～！



落ち葉がみられ、冷たい風が吹く冬！寒い時期を乗り越え、またあたたかい春を楽しみに・・・

シークワサーは給食のから揚げに添えて、いただきました！



### 大根・さつまいもの収穫



### ブロッコリーの収穫

今年もたくさんの野菜が収穫できました！子どもたちは、種や苗から自分たちでお世話をするこゝとで、栽培への苦勞や収穫・食べる喜びを感じる経験をすることができます。四季折々の自然物に触れ、食べ物をいただくこゝとへの感謝の気持ちや、小さな命を大切にすることを覚えています。

くんくん  
いいにおい～



綺麗な花が咲くころは  
大きい組さんだよ～♡





② 廃材再利用 ～お店屋さんごっこ～

使わなくなった廃材を利用して、新しい作品に大変身！園や家庭から使わなくなったものを集め、製作材料置き場に分類をしています。「これはうどんの麺になりそう！」「ポタンって宝石みたい」と目を光らせ、想像を膨らませて、いろいろなものを作っています！幼稚園では、異年齢で過ごす「Jollyday」という時間があります。「Jollyday」とは自分たちの好きな遊びを見つけて遊びを楽しんでいく時間です。今回は、お店屋さんごっこをしようということになり、廃材が生まれ変わって、それぞれのお店の新しい食べ物や商品になりました♪



カラフルでおいしそうな味がいっぱいの  
アイスクリーム屋さん



大人気の  
♡おしゃれやさん♡



みんな大好きハンバーガー  
ワゴンにのせて  
デリバリーサービス



同じ場所に片付けよう  
みんなで気持ちよく  
使えるように



異年齢保育  
**Jollyday**  
～廃材を使ってお店屋さんごっこをしよう～



「いらっしやいませ」  
お客さんがいっぱい忙しい～



ジュース屋さん

葉っぱをつぶして色水ジュース  
様々な容器に入れて並べてみよう♪



新聞紙を丸めて石に！  
みんなで温泉を作ったよ



ほくは  
ピザを  
買ったよ



だんだん形になっていく  
いろいろな素材にふれる経験



手作り銀行ATM

○日常の活動の中にも・・・

年長児のお泊り保育で「お化け屋敷」をすることになり、みんなでお墓やお化けを作りました



段ボールに色を塗って本物っぽくしよう!

「お墓づくり」(年長児)



「ホットケーキづくり」

素材に触れる経験がいっぱい!  
製作活動では、コックさんの帽子をかぶって料理開始♪(年少児)

美味しくなあれ



「野菜スタンプ」

製作活動で野菜スタンプをしました!  
身近な食材を使っでの活動に心もわくわく♡



③環境について ～絵本の読み語り～

みんなが住んでいる地球って? これって本当にごみ?

地球温暖化やゴミ問題、「SDGs(持続可能な開発目標)」など、未来を生きる子どもたちに伝えていかなければいけない環境問題。幼稚園では、絵本を通して「環境」について考えてみました。

また、エコアワードの作品応募では、おうちの人や先生と一緒に環境について考えるきっかけにもなっています。



好き嫌いしてたら・・・  
もったいないばあさんが  
きちゃうね!  
残さずなんでも食べよう





## 6.2 光華小学校

### ① 光華環境DAY（9月8日）

昨年度に引き続き、この日は「光華環境DAY」として、全校で現在の地球環境問題について知り、各自でできる身近な環境問題の解決方法・環境保護につながる活動などについて話し合ったり取り組んだりする日となりました。はじめは徳風館小講堂にて全校児童が益田先生の講演を聞き、その後各クラスに分かれてそれぞれの環境活動に取り組みました。



#### ① 全校での取り組み ～京都大学・益田玲爾先生の講演～

6月に5年生が舞鶴でお世話になった益田玲爾先生をお迎えして、特別授業「水の中から見た京都の海の環境」と題し、先生がいつも観察されている海の生き物のスライドをもとに、非常に興味深く楽しいお話をたくさん聞かせていただきました。地球温暖化の原因もあり、先生が研究を続けてこられたこの数十年で、以前見られた魚がいなくなったり、その逆もあったりと、舞鶴の海の生き物の様子も少しずつ変化しているそうです。これからも自然豊かな海を守っていくためには、私たちみんなが環境問題を正しく知り、環境を守る意識を持つことが大切だということを知りました。先生は研究で取ったお魚はお料理にしてきちんと食べることにしておられるそうです。

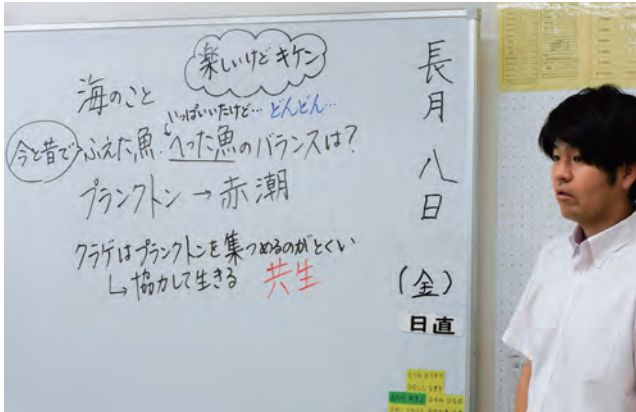


#### ② 各学年の取り組み

**【1年生】** …まずは国際的な取り組みとして注目されているSDGsを知ることになりました。SDGsを知るとは、世界の現実を知ることと同じです。「SDGsって何?」「私たちの生活とどう関係があるの?」「私たちは何をすればいいの?」ということを中心に学びました。1年生では難しい項目もあり、全てを理解することは難しかったものの、「貧困に苦しむ人がいる」「学校に通えない子どもがいる」「温暖化が進めば地球に人が住めなくなってしまう」・・・そんなことを理解可能な限りみんなで考えました。環境問題を初めて知った子どもたちもいたようです。最後に、SDGs17項目の中から1つを選び、色鉛筆を使って画用紙にマークと感想を書きました。

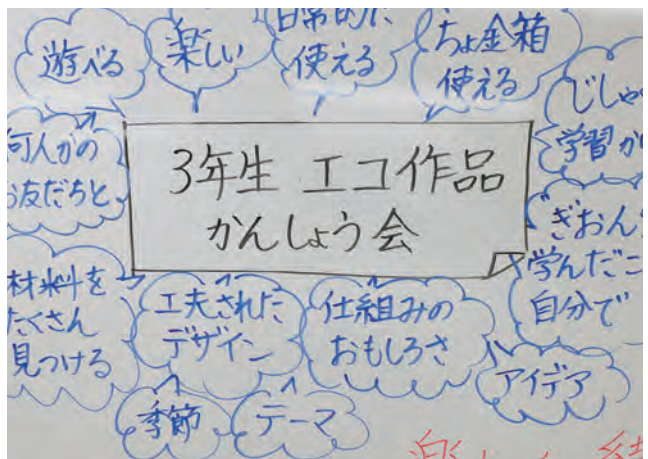


**[2年生]** …2年生はエコ標語作りを行いました。夏休みの宿題として草案を2つ作成しており、そこから選抜・推敲を行い完成させました。標語作成にあたり、子どもたちは普段の自分の生活と環境との関わりを深く考えていました。節電・節水といった子どもたちが自分でも取り組めるテーマや、買い物の際にレジ袋を買わない・家庭ごみの分別やリサイクルといった家庭で取り組むべきテーマについての標語が多く出ました。中には「海洋プラスチック」「脱炭素」という難しいキーワードの入った標語も見られました。イラストを加えてA4サイズのカードにきれいにまとめ、教室前廊下やコモンスペースに掲示し、日常的に環境問題を意識するきっかけになればと思います。



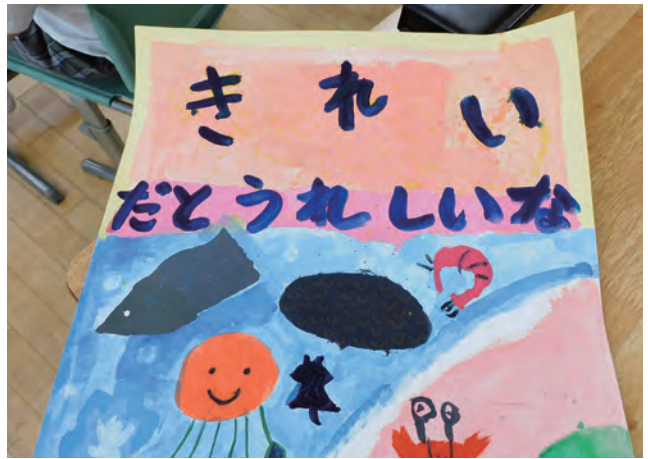
**[3年生]** …夏休みの課題で取り組んだ「エコ工作作品」の鑑賞会を開きました。ペットボトルのキャップ、ラップの芯、デザートのカップ、空き箱などを使った作品は、子どもたち一人ひとりのアイデアがたくさん盛り込まれ、非常に力作ぞろいでした。あらかじめ書いておいた各自の「作品介绍」と作品と一緒に展示し、学年合同で鑑賞し合い、友だちの作品の素敵な所をたくさん見つけました。

じっくりと鑑賞した後は、お互いの作品のすばらしさを伝え合いました。作品を通して交流し、もの作りの楽しさを感じることもできました。この鑑賞会の感想などを自主学習ノートにまとめた児童も見られました。子どもたちにとり、環境について考えるよいきっかけとなる時間でした。



**[4年生]** …4年生は、1学期から社会科などでゴミのことや水のこと、森林のこと、自然環境のことを学習しており、この活動の直前には日本海まで臨海学習に出かけたこともあり、それらで得た知識や体験活動を通して、各自で環境ポスターを描きました。自分が一番伝えたい・訴えたい気持ちや内容は何か・そしてそれを伝えるためにはどのような構図・構成、デザイン（色）、キャッチコピーが効果的か、等々、じっくりと時間をかけて全員が取り組んでいました。この日の益田先生の海の講演や臨海学習の記憶が鮮明なため、海に関するポスターがたくさんできました。後日、完成した全員の作品をコモンスペースに掲示し、多くの人に見てもらおうことで、環境問題の啓発に大きく役立つことができたと思います。





**[5年生]** …年度当初より、京都市の環境リーフレットを使用したり環境マインドマップを作成し交流したりして1年を通しての環境学習プランを確認していました。6月に参加した「海と日本プロジェクトin丹後」とそれに向けての事前・事後学習にて「生き物が暮らしやすい海」「舞鶴湾で行われている研究」について学び、温暖化がもたらした変化について自分なりの意見を持つに至りました。4年生とともに参加した臨海学習のすぐ後にあった環境DAYでは益田先生や全校児童の前で代表3名が自分なりのプレゼンを行った後、身近で自分でもできる取り組みを標語にしました。さらにそれを日本語だけでなく英語にも訳して海をイメージした台紙にまとめ、これも各自作成の「海的环境新聞」とともに掲示しました。



**[6年生]** …6年生は、エコ標語の作成に取り組みました。昨年度の環境DAYにて既にSDGsについて学んでいたこともあり、環境問題については概ね正しく理解ができている様子でした。17の目標すべてに精通しているわけではないものの、身近な項目・理解しやすい項目については多くの児童が認知していました。その後、各自考案したエコに関する標語の清書に移りました。一人ひとりがじっくり丁寧に清書することを心がけました。他の児童がどんな標語を書いたのか気になり、自然と子ども同士で交流する場面も見られました。イラストを入れる参考にiPadなどの機器を使用するなど、6年生ならではの方法・工夫で最後まで取り組む様子が見られました。環境について考えるよい機会になりました。



②「海と日本プロジェクトin丹後」(6月10～11日:5年生)

今年度初の取り組みですが、KBS京都さん主催「海と日本プロジェクト」として、5年生が1泊2日で宮津・舞鶴の海へ出かけました。シーカヤックやシュノーケル体験に始まり、実際の海に棲む生き物の様子や近年の海の環境変化、ウニの捕獲と解剖、かまぼこ工場見学、そしてこれからの日本海のことなどなど、京都大学の益田先生はじめ多くの方々に実際に教えていただきました。子どもたちは実際に海に潜ってウニを獲ったり、大学の研究施設にて海の様子のお話を聞いたり、解剖の実習もさせていただいたり、普段の学校の中・本や資料の中からだけでは分からない貴重な経験ができました。最後には各グループで話し合い、これからの海の環境のためにできることは何かについて、参加者全員での発表会も行いました。この美しい海を、将来も守り続けたいものです。



③臨海学習(9月1～2日:4・5年生)



2学期開始早々、4・5年生は夏休み前からずっと楽しみにしていた臨海学習に出かけました。1日目は浜にてタイヤチューブや木材を使ってのイカダ作り(みんなで乗って海へ出ました)や海岸の砂と貝を使ってのキャンドル作り・夜はウミホテル観察や打ち上げ花火をし、2日目はス

ノーケルセンターにて磯に生息する多くの生き物(ヒトデ・ヤドカリ・ウミウシなど)の学習と採集をじっくりと行いました。お天気はやや曇り気味でしたが暑すぎることもなく、予定通りの日程をこなすことができました。ホテルや現地のスタッフの皆様には大変お世話になりました。

世界やわが国を取り巻く海の環境問題を考える学習活動はもちろん、4・5年生はみんなで食事や入浴、就寝などの集団生活が貴重な経験となったことでしょう。たくさんの思い出を長く記憶しておいてほしいものです。

④フィールドワーク(11月14日:5年生)

5年生の総合的な学習の時間では「海と日本プロジェクト」をはじめ、環境発表会や新聞作成、光華環境DAYなど、海にスポットを当てた環境学習を進めてまいりました。2学期には海だけでなく“山”にも目を向け、京都光華女子大学の高野 拓樹教授協力のもと、フィールドワークとして上賀茂試験地へ行きました。

京都大学で研究されている先生にもついでいただき、ワークシートを手に、試験地の中を案内していただきました。子どもたちの「これって何?」「何の木の実?食べられる?」「どうしてこんな形なの?」といった質問にもすべて丁寧に回答してくださり、約2時間の探索はあっという間に過ぎてしまいました。実際に聞いたり、触ったり、匂いをかいだりしたこの経験を、ぜひ今後の環境学習にも活かしていきたいです。





### 6.3 京都光華中学校・高等学校

#### ① 環境美化委員の取組やピュッフェ講座にて：花の寄せ植えや色素増感太陽電池の作製

中高では例年京都光華女子大学の「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～」プログラムの一環として、花の寄せ植えに取り組んでいます。今年度はそれに高校で取り組んでいる「放課後ピュッフェ講座」の「おうちではギリギリできないサイエンス」講座の取組と連動させて、身の回りにある花の色素を活用して作られるソーラーパネルである、色素増感太陽電池の作製に挑戦しました。春と秋にキャンパス内での寄せ植えを兼ねて園芸学を学びましたが、生徒はこのときはまだこの身近な花から太陽電池が作られるのか半信半疑の状態でした。冬には京都光華女子大学キャリア形成学部の高野拓樹教授のご指導の下、花から抽出した色素をキットに塗り込み、個々に色素増感太陽電池の作製に取り組みました。実際にオルゴールがなったときは衝撃的でしたが、同時に手頃な材料で作製できることにも驚きました。ウェアラブル端末が当たり前時代に、植物由来の電池も期待されていることに感心しながら体験を終えました。



配置も検討しながら植える花を選定中



無事植え終わりました！



アドバイスもいただきつつ個々に植えました



色素増感太陽電池についての講義



実際に色素増感太陽電池を作製

## 6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

### ① オープンキャンパスでVR環境学習

2023年6月4日（日）、保護者11名、高校3年生10名、高2年生2名を対象に、ミニ講義「京都の山はシカだらけ？ VRで大自然を体験しよう」を実施しました。講義では、まず、日本では温暖化や狩猟者の高齢化によりシカ頭数が増加傾向にあること、本学が立地する京都ではその傾向が特に大きいことを、推移グラフなどを用いて説明しました。次に、以前、JSTの本事業で制作したVR動画（@芦生研究林偏）を使って、実際のシカの影響が出ている自然林を散策しました。参加した高校生や保護者は、VRという非日常を通じて、環境問題をリアルに学ぶことができました。



### ② 芦生研究林サイエンスツアー2023の実施

2023年8月12日（土）、中1女子3名、高1女子1名、保護者4名（合計8名）を対象に、「京都大学芦生研究林サイエンスツアー2023」を開催しました。本JSTプログラムがスタートしてから、今年で3回目となるツアーです。本学の立地する京都市内から北に35kmほどに位置する芦生研究林は、ブナやアシウスギが生息する日本でも有数の天然林です。今回は女性研究者である京都大学の坂野上なお先生他、2名の現地スタッフのご指導のもと、フィールドワークを実施しました。学生スタッフも参加者への対応に頑張ってくれました。最先端の森林学の研究内容を紹介いただくのみならず、道中では坂野上先生のキャリアのお話を伺うことができ、とても有意義なサイエンスツアーとなりました。参加した中高生が、今度は研究者としてこの森に戻ってくるかもしれません。



③ 上賀茂試験地サイエンスツアー2023の実施

2023年9月9日（土）、京都大学 上賀茂試験地サイエンスツアー2023を実施しました。女子高生6名、保護者1名、教員1名にご参加いただきました。冒頭では、本学教員からこのツアーの趣旨を説明し、理系のロールモデル提示として、現在、京都大学理学部で化学を学ぶ学生の動画を視聴していただきました。次いで、上賀茂試験地の職員の方から、同試験地の歴史や業務内容についてご説明いただきました。そして、メインであるフィールドワークを実施しました。試験地内における竹や松に関する実験の他、炭の作成方法など里山における人と森の共生について、サイエンスの観点からお話いただきました。学生スタッフも参加者への対応に頑張ってくれました。参加者からは、「農学に関心が深まった」「大学での研究内容に触れることができた」等、理系分野に関心が高まったという感想をいただきました。



④ アップサイクル・ファッションショー

キャリア形成学科宮原ゼミでは、2022年から夏のオープンキャンパスで「アップサイクル・ファッションショー」を企画・開催しています。これは、プライダル関連企業から提供いただいた、レンタル衣装としての役割を果たしたドレスを、学生らのデザインによってリメイクし、ファッションショーで披露するものです。

近年、衣類廃棄は環境汚染につながる社会課題として取り上げられています。環境省によると、国内アパレル供給量は年間約81万tあるのに対し、そのうちの約9割に相当する約78万tが企業や家庭から廃棄されています。ゼミではこうした社会状況を学び、豊かな生活を持続可能なものにするために自分たちができることを考え、実践しています。

ドレスのリメイクは、毎年テーマを設けています。2023年は「花」とし、色とりどりの個性を表現するドレスと、企業から提供いただいた廃棄対象のグリーン（まだまだ綺麗！）を会場に飾り、来場者に持ち帰りいただきました。この世に一つしかないドレス作品は、学生から社会に対するカラフルなメッセージです。





健やかな明日が華ひらく

#### 地域連携推進センター教職員

関 道子 (センター長・大学 看護福祉リハビリテーション学科)  
土佐 嘉宏 (副センター長) 橋詰 侑季 (センターマネジャー)  
中原 郁子 (センター職員)

#### 地域連携推進委員会

西川 智文 (大学 健康栄養学科) 吳 小 玉 (大学 看護学科)  
徳田 仁子 (大学 心理学科) 関 道子 (大学 医療福祉学科)  
佐藤 嘉洋 (大学 キャリア形成学科) 西野 夕子 (大学 こども教育学科)  
羽深 太郎 (短期大学部 ライフデザイン学科)

#### 環境教育推進室教員

金治 宏 (室長・大学 キャリア形成学科) 間浦 幹浩 (中学校・高等学校)  
矢野 雅東 (小学校) 辻村 愛 (幼稚園)

---

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書  
光華女子学園 環境報告書 令和5年度版

令和6年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

URL : <https://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターウェブサイト)

本報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。

お問い合わせ : [chiiki@mail.koka.ac.jp](mailto:chiiki@mail.koka.ac.jp)



地域連携推進センター  
ウェブサイト



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園

